

Landscape and Aquatic Life around the Nogawa River , Seifu Hirai (Nogawa Hotaru-mura)

## 1. はじめに

野川は、古代多摩川が形成した国分寺崖線の湧水を集めて流れる、延長 18.8km の小河川である。一部にはコンクリート三面張りの部分も残されているが、全体的には広い河川敷と土羽の護岸を有し、大都市にありながら多くの生きものが見られる貴重な空間である。高度成長期には著しく汚濁し、生きものはほとんど見られなくなったが、水質の改善とともに 1985 年頃から多くの生きものが帰ってきた。

本報告では、1984 年以降、主に小金井市内の野川で観察した結果をもとに、一市民の目から見た水辺の生きものと風景について述べる。

## 2. 昔の野川、今の野川

野川ができた頃は、崖線からの腐植土や関東ロームが流れ込み、ガマやヨシなどが密生する湿地帯が広がっていたと思われる。人々が定住して田畑が整備され、玉川上水からの導水が始まった頃、野川は満々と水を湛えた野の川の風景を醸すようになった(図-1)。



図-1 昔の野川(1960年) 1)



図-2 現在の野川(2004年)

近年、田畑は急速に減少し、玉川上水からの導水も停止された。1961 年からの河川改修により河道は掘り下げ・拡幅・直線化され、現在の姿になった(図-2)。また、下水道整備、湧水の減少によって水量は著しく減少し、毎年の湯水は大きな問題になっている。

## 3. 風景を構成するもの

このような現在の野川の風景を構成する要素として、次のものが考えられる。

- ・空間の広がり...河道、河川敷、崖線、公園
- ・水...流量、流速、流れの状態、透視度、水深
- ・土...硬い、柔らかい、浮泥
- ・石...大きさ、量、石の状態(浮沈)
- ・植物...種類、大きさ、量、水辺との距離
- ・コンクリート...表面構造、傾斜、被覆度
- ・空隙...護岸の割れ目、石の下、草の根の下
- ・生きものの姿...魚、水鳥、子どもたち など

## 4. 風景と生きもの

広い空間に川が流れ、緑に囲まれた風景を見たとき、私たちは多くの生きものの存在を直感する。さらに、川遊びを経験すると、ハビタットまたはマイクロハビタットと生きもの之间的关系が見えてくる。それは、次のようなことである。

- ・水辺の草むら...稚魚の隠れ場、ハグロトンボ等の産卵場、増水時の生きものの避難場所
- ・浮き石:ナマズの隠れ場、トウヨシノボリの産卵場、魚の越冬場
- ・深み:魚のたまり場、越冬場
- ・石の平瀬:コガタシマトビケラ、ニンギョウトビケラ、ヒラタドロムシ
- ・岸辺:稚魚、メダカ、アオヒゲナガトビケラ
- ・間隙:ナマズ、モクスガニ、アメリカザリガニ

## 5. おわりに

川の風景と生き物の関係を知ることは、時間はかかるが難しいものではない。何回も何回も川に行くことだ。「あの石の下にナマズがいる」とわかるのは楽しいし、これからの川づくりにも欠かせないヒントを与えてくれると思う。

(参考文献)

- 1) あの頃その頃 小金井写真集,水澤静男,1993